

授 業 科 目 名	国際社会論	教 員 名	未定	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	選択
科 目 番 号	KOK202	配当年次	2年前期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位					小幼コース
					幼保コース	選択
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・めまぐるしく変動する国際社会の現況と課題を日本とも関係の深い中国史という観点から学ぶ。 ・国際社会というものを、日本や中国が含まれるアジアに視点をおいて考察する。 ・時事問題に関する情報、知識を獲得する。 					
到 達 目 標	<p>(1) 講義で学んだことを簡潔にまとめられる。</p> <p>(2) 講義の中から自分なりのテーマを見つけて発表できる。</p> <p>(3) 国際社会の大きな流れを自分なりにまとめて、発表したり、レポートにまとめることができる。</p> <p>(4) 自分が考えた課題とその解決策を人に伝えることができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>この授業では、日本とつながりの深い中国に着目することで、国際社会というものを身近に感じながら学べるようにする。現代社会においても中国は世界に多大な影響を与える存在であることから、中国を知ることは世界を知ることにつながるのである。これまで学んできた日本と中国の関係を再検討し、その時代の中国が世界とどのような関係にあったのかを見直すことで、国際社会を考える。今年度は、世界のコロナウイルス対応（特に台湾）とロシアによるウクライナ侵攻についても、中国との関係を踏まえて取り上げる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、ねらい、成績評価等についての説明） 導入として、本講義で扱う国際社会論とはどのようなものかについて考える。 近年の国際情勢についても情報、知識を獲得する。（コロナウイルス対応、ロシアによるウクライナ侵攻）（目標(1)）</p> <p>第2回：世界のコロナウイルス対応について 日本のコロナウイルス対応はどのようなものか、諸外国とはどのような違いがあるのかについて考える。（目標(1), (2)）</p> <p>第3回：ロシアによるウクライナ侵攻の背景にあるもの ウクライナ侵攻をロシアはなぜ正当化するのか、同じようなことは世界の他地域にはないのかについて考える。（目標(1)）</p> <p>第4回：日本の中の外国人、日本の中の国際社会 日本の中の外国人や、外国人集住地域（例：チャイナタウン）等についての基本的知識を獲得する。（目標(1)）</p> <p>第5回：日本と世界のチャイナタウン 日本と世界のチャイナタウンから現在の国際社会を考える。チャイナタウンの誕生から現在までの歴史を通して、世界史の流れについて復習し、理解を深める。 また、日本の三大中華街（横浜・神戸・長崎）や池袋ニューチャイナタウンについて、自分で調べて発表できるよう、調べ方、まとめ方、発表の技法についても学ぶ。（目標(2), (3)）</p> <p>第6回：宮崎のチャイナタウン 地域から国際化を考えるために、江戸時代に宮崎県都城市にあったチャイナタウンについて学</p>					

	<p>ぶ。(目標(1))</p> <p>第7回：中国史からみる国際社会①隋の建国まで 中国史の中でも、6世紀半ばまでの歴史から、当時の国際社会を考える。 孔子が活躍した春秋時代、始皇帝による中国統一(秦)、倭の奴の国王に金印を与えた後漢時代、卑弥呼が使者を送った三国志に登場する魏、さらには五胡十六国・南北朝時代を経て隋ができるまでがこの時代にあたる。当時の日本と中国との交流などから、国際社会について学ぶ。 中国史と日本史・世界史をつなげられる論点を自身で見出し、その論点について発表する(目標(1), (2), (3))</p> <p>第8回：中国史からみる国際社会②隋～宋 中国史の中でも、隋～宋の歴史から、当時の国際社会を考える。 遣隋使・遣唐使をはじめ、日宋貿易など、この時代には日本との交流も一層深まる。国際社会の中での日中関係に着目し、この時代の国際社会について知る。中国史と日本史・世界史をつなげられる論点を自身で見出し、その論点について発表する(目標(1), (2), (3))</p> <p>第9回：中国史からみる国際社会③元～清 中国史の中でも、元～清の歴史から、当時の国際社会を考える。 元代以降は領土も拡大し、ユーラシア大陸では中華帝国の版図が拡大した。そこで、中東やヨーロッパも対象に含め、この時代の国際関係を考える。中国史と日本史・世界史をつなげられる論点を自身で見出し、その論点について発表する(目標(1), (2), (3))</p> <p>第10回：中国史からみる国際社会④中華民国 1 中国史の中でも、中華民国の歴史から当時の国際社会を考える。 中華民国の建国までとその後について、現代史とのつながりを把握する。(目標(1))</p> <p>第11回：中国史からみる国際社会⑤中華民国 2 中国史の中でも、中華民国の歴史から当時の国際社会を考える。 中華人民共和国建国につながる動きや、日本による台湾統治の開始などに着目して、世界史の流れを把握する。(目標(1))</p> <p>第12回：中国史からみる国際社会⑥中華人民共和国 1 中国史の中でも、中華人民共和国の歴史から国際社会を考える。 中華人民共和国建国後の動きや、その後の国内の少数民族政策について学ぶ。(目標(1))</p> <p>第13回：中国史からみる国際社会⑦中華人民共和国 2 21世紀に入ってから中華人民共和国の動きについての把握を目指す。特に、「一帯一路」構想は、世界経済をけん引する存在になることを視野にいたれた動きである。歴史に登場する陸と海の「シルクロード」と関連させて考察する。(目標(1))</p> <p>第14回：中国からみる国際社会⑧中華民国・台湾 中華人民共和国と中華民国・台湾との関係について学ぶ。中国にとって、さらには世界的にみて、台湾とはどのような存在なのかを知ることで、現代の国際社会を知る。ウクライナ侵攻がアジアにとっても無関係ではないことを理解する。(目標(1))</p> <p>第15回：まとめ 中国史という視点からみてきた国際社会の大きな流れと、それぞれの時代の特徴について、各自が自分なりにまとめて発表する。(目標(3), (4))</p> <p>定期試験</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>定期試験60%、授業中の発表40%で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。あるいは、授業時または授業の前後に口頭で行う。</p>
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) ・毎回の内容について、事前あるいは事後に講義資料等をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等をあらかじめ調べたり、復習してまとめたりしておくこと。 ・毎回の授業後に、内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。</p>

テキスト	特になし（プリント配布）
参考書・ 参考資料等	参考書、参考資料等は初回授業で紹介する。
担当教員からの メッセージ	<p>この授業は、講義を中心とはするが、授業中も質問に答えたり、リアクションペーパーを書いたりする。また、発表準備のためには、授業時間中や課外の時間にテーマについて自分で調べることも必要である。発表中は、他の受講生に質問をしたり、コメントペーパーを書いたりもするので、積極的な受講態度が求められる。</p> <p>国際社会について知っておくことは、21世紀を生きる皆さんにとってはとても重要なことです。隣国・中国の歴史を日本と関連させて学びなおすことをきっかけに、世界についてももう一度考えてみましょう。</p>
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）